



『卓話：源流でつながる山と街』 青木 亮輔 様

【会長挨拶】 北村 淳 会長

本日はオープン例会ということで、たくさんの方にお越しいただきありがとうございます。たいへん華やかな感じの例会になって感謝しております。

先週は親睦旅行ということで、日帰りで栃木県に行ってきました。先ず、大谷資料館へ行き巨大な採掘場跡地を見学しました。それからお昼は宇都宮餃子の食べ放題、その後、蔵の街栃木へ行き「蔵の街遊覧船」に乗ってきました。秋晴れの良い天気で充実した一日となり親睦も図れました。ご参加の皆様はお疲れさまでした。

11月はロータリーや日野市内の各種の行事がたくさんありますので皆様と共有したいと思います。

*11月3日(文化の日)：日野市市制施行六十周年記念式典が午前10時より、ひの煉瓦ホール大ホールで開催されます。東京日野ロータリークラブ会長として出席してきます。

*11月7日(火)：第2750地区のクラブ代表者会議が学士会館で開催されます。昨年度の会計決算の承認が主な議題となっています。直前会長が出席するのが慣例となっていますので、松浦直前会長よろしくお願いたします。

*11月11日(土)：第57回日野市産業まつりが日野市市民の森ふれあいホールで開催されます。4年ぶりの開催になります。午前9時30分からの開会式に東京日野ロータリークラブ会長として出席してきます。

*11月12日(日)：日野市国際交流協会30周年お祝いの会・おたのしみ会が開催されます。13時からイオンモール多摩平の森3階イオンホールで開催されます。こちらにも参加してきます。

*11月13日(月)；多摩南グループ・インターシティミーティングが15:30より京王プラザホテル八王子で開催されます。八王子・町田・日野の11クラブが集まる会合です。こちらは例会振替となっています。

*11月29日(水)：2024年-25年度第1回会長エレクト研修セミナー(PETS)が10:00~16:40オンラインで開催されます。昨年までは3月に2日間行われていたのですが、今年は2回に分けて第1回目を11月に開催することになりました。次年度会長の遠藤さん、よろしくお願いたします。

以上となります。今日も一日よろしくお願いたします。

【幹事報告】 伊東 秀章 幹事

- ① 2023年11月のロータリーレートは、149円です。
- ② 国際ロータリー日本事務局 財団室より、財団NEWS11月号が届いております。



《例会プログラム》

【司会】

柴田 健介
例会向上委員



【開会点鐘】

北村 淳 会長

【国歌・ロータリーソング】

ソングリーダー
田中 くに子 君
『君が代』
『奉仕の理想』



【ビジター・ゲスト紹介】

株式会社東京チェンソーズ
代表取締役 青木 亮輔 様

元トヨタ自動車専務取締役
現事業構想大学院大学特任教授
岡部 聡 様

岡部 聡 様 令夫人
岡部 雪枝 様

まなべ整膚療院
院長 真鍋 健次 様

まなべ整膚療院
副院長 真鍋 眞弓 様

谷津不動産鑑定所
代表 谷津 繁 様

長谷川不動産鑑定
代表 長谷川 裕幸 様

(株)森不動産鑑定事務所
代表取締役 森 宏師 様

(有)不動産センター
代表取締役 押谷 誠治 様

子育てキッチンコーチ 粒と波
代表 大原 千絵美 様

【米山記念奨学委員会】 松浦 信平 委員長

10月は米山奨学月間ということで日本で学ぶ海外からの留学生のための奨学金基金の特別寄付を集めています。会員の皆様からたくさんの寄付をいただいておりますが、今日まで集めておりますので是非お声がけください。

今日例会終了後に指名委員会を開催します。該当の委員の方はお残りください。



明治安田生命保険相互会社
多摩南営業部 増永 宏子 様

【出席報告】

柴田 健介 委員長

【ニコニコ報告】

西山 尚之 委員

【職業奉仕委員会】 吉田 宇秀 委員長

今月末28日から恒例の明星大学での特別講義が始まります。1月は地区職業奉仕委員長卓話やワークショップも考えておりますので、是非ご参加いただければと思います。詳しくはメール等でお知らせいたします。



【委員会報告】

米山記念奨学委員会
職業奉仕委員会
国際奉仕委員会

【卓話】

株式会社東京チェンソーズ
代表取締役 青木 亮輔 様

【国際奉仕委員会】 小倉 裕美 委員長

国際大会のお知らせをいたします。来年の5月26日から5月29日シンガポールで今年度は行われます。登録料は、今年の12月15日までの登録で\$500、3月31日までの登録で\$595、それ以降のかたは\$695になります。ご参加される方は事務局から案内をしますので申し込んでください。ロータリーの方から旅行の案内が出ています。シンガポールはホテルもたくさんありますので、ご自分で取るのも一つの方法です。参加できる方は是非参加してください。



お弁当：なか安

【卓話：源流でつながる山と街】 株式会社東京チェンソーズ 代表取締役 青木 亮輔 様

弊社は檜原村を中心に事業を行っています。創業は2006年(平成18年)になります。ご紹介いただきましたように4名で始めて現在31名で仕事をしております。企業理念の中にあります「東京の木の下で」は、東京にも木があつて森がある、そういった東京にしっかりと根を張って仕事をしてゆこうということです。「山の今を伝える」は、林業は山の中で人知れずやっているようなイメージがあるので2006年に創業した時にしっかりと情報発信それもSNSとかだけではなくイベントなどを通じて顔の見えるような情報発信をしてゆこうということです。美しい森林を育てて生かして届ける、そのような事業を通じて地球の幸せの一助となれば良いなと創業いたしました。ミッションとしては「森林の価値を最大化する」ということに取り組んでいます。



東京なのですが、日野市の辺りから西側に多くの森林があります。東京の約4割が森林と言われていまして、世界の首都の中でこれだけ森林が多い都市は無いのではと思っています。檜原村や奥多摩町に関しましては、檜原村は93%が森林で、奥多摩町は94%です。その全体の8割程は秩父多摩甲斐国立公園に含まれているということで、羽田空港からその日のうちに行けるナショナルパークは非常に貴重な場所と思っています。日本には34の国立公園がありますが、その玄関口に当たるような位置付けです。国立公園という利用と保護の両面で管理されていますが、土地柄利用の方面に重きが置かれています。その森林はどのようにできているかと言うと、檜原村は約7割が人工林になっていまして、人の手によって植林がされてきた森林になります。戦後、檜原村の約7割はハゲ山でした。戦中の軍事用材、戦後の復興用材として山の木が切られてそこに新たに植林をして、植栽から下草狩り、除伐、間伐しながら手入れを続けて現在樹齢60年~70年の木に成長している。そのような木に覆われているとイメージしていただければ良いかと思ひます。林野庁の資料によると樹木の資源量としては有史以来最大の資源量となっています。これまで切られない時代が続いたのは中々ないと言われております。これは机上の空論になってしまうのですが、日本は世界第3位の木材消費国で、1年間に消費する量と1年間に資源量として増える量が数字上ではイコールになっているので、本来であれば100%自給できる数字です。木の成長した分だけ消費量を賄えることになっていますが、残念ながら人材不足であったり、山に道が入っていないことで切り出すことができないということで自給率は4割程に留まっています。そういった中で今、木材に関しましては国産材を使おうということで、木材自体が再生産可能な資源ということで昨今注目をされています。商業施設やビルの中に今後木材を使って行こうという動きもあり、今日本の中では国産材が注目されるようになってきています。また最近のSDGsの考えの中で、これまで森林というと水源涵養や木材利用という狭い範

圃で見られていたのですが、森林とさまざまな業種や考えの方がアプローチで関わることで森林が多様化してゆくとも言われていまして、そうすることでSDGs17の目標に対して14の目標に貢献できると言われるようになってきています。例えば教育で、森林の中で子どもたちだけでなく企業さんも森の中に入って学ぶ機会を得たり、新たな業種の方が関わることで新たな雇用が生まれたり、例として森林の中にITを持ち込んでワーケーションとかが生まれてきたり、そういった多様なアプローチで森林に関わろうという人が増えてきています。

このような背景の中で弊社は事業を行っています。大きく3つの事業に分かれます。1つ目は「林業事業部」になります。木を植えたり、木を育てたり、育った木を伐採して山から切り出す。2つ目は「販売事業部」で簡単に言うと木を売る事業部です。素材を売る事業と加工品にして一手間かけて価値を付けて売る事業を併せてやっています。3つ目は森林の空間を生かした体験サービスの「森林サービス事業部」です。この3本柱で事業を行っている会社です。その中で弊社は「森林の価値を最大化する」ということに取り組んでいます。これまで林業会社は木材生産をすることが主力でしたが、森林の中で研修を行ったり、これまで加工業の所に木材を供給することで終わっていたのを自社でやることで6次産業化のイメージで取り組んでいます。このようなトータルの事業で「森林の価値を最大化する」ことを目指しています。

なぜこのようなことに取り組むようになったかの1つのきっかけとしましては丸太一本の価格によります。写真の丸太は樹齢60年～70年育った木になるのですが、これが実際にどのくらいの値段で取引がされているのか。3,000円という価格になっています。今の木材価格はピークの1/4です。昔は原木を市場に運ぶだけで林業は成り立っていましたので山間部では木材加工業が盛んになることはありませんでした。ただ気づいたら木材価格が下がってゆき木材加工業が育っていなかったのもそのまま林業が衰退したのが現状です。そのような中で弊社では一本の木の価値を最大化しようということによって一本丸ごと使い切ると言う取り組みを行っています。大きく2つありまして、「木に付加価値をつける」ということと、「これまで山に捨てていたものを利用する」ということの2つのポイントで取り組んでいます。このイラストを見ていただいて、先ほど市場に並んでいた木材がこのイラストの真ん中の丸太の部分です。この幹の真っ直ぐな部分を選んで市場に届けています。それ以外の根っこか枝葉とか形の悪い木というのは規格化できない素材ということで市場では取引されなかったので出しても無駄ということで山に捨てていました。そうすると一本の木のうちで利用されていたのは質量としては約半分で半分は山に捨てていた、良く言えば土に還していたというのがこれまでの林業でした。最近はそうした未利用材もバイオマスとしてエネルギーに変えようという取り組みもされていますが、そういったことでは木の価値はなかなか上がらない。むしろ価値が低いから皆さんそれを燃料材として取り組もうとするので、山側にとってはあまりメリットがないのです。なので弊社としてはその木に付加価値を付けるということと、未利用材を活用することに取り組んでいます。

どのように取り組んでいるかということですが、例えば付加価値をつけるというところですが、左側は赤坂のサントリホールのカラヤン広場ですがクリスマスシーズンには毎年イルミネーションがされていて、そこに檜原村の山の木を一本運びました。噴水広場に枝葉を敷き詰めてその上に丸太を乗せてモニュメントのような形にして先端の枝葉のところにイルミネーションを付けてクリスマスツリーとして飾りました。通常これはイベントが終わった後に木材チップとして造園などに使われることが多いのですが、また檜原村に持ち帰りまして製材をして施設の中の木道として再利用しました。そうすることでこの一本の木は、市場に持ってゆけば1万円ほどにしかありませんが、こういったイルミネーションで活用することで桁2つくらい変わる仕事になる。そうすると檜原村の中にも雇用が生まれてくる。手間がかかることによって村の中にも雇用が生まれてきます。

また、このような商品化にも取り組んでいまして、丸太をスライスした鍋敷ですが、1枚2,000円程で販売しています。厚さで4cmくらいです。2枚で厚さ8cmで4,000円です。先ほど市場に並んでいた丸太は4mで3,000円です。どっちの林業をやりますか？というところで弊社は加工して手間をかける。林業の世界ではそのようなことをすると手間がかかる、販路がないということで、手間をかけることを嫌がります。しかし手間は雇用なのです。大きな林業では効率化をして手間をかけないということも大事なポイントになるのですが、檜原村のような小さな村では手間をかけることで雇用を作り出してゆくの大事なポイントになってきます。それが4人で始めて30人になったポイントだと思っています。またこれまで捨てられていた素材は規格化できない素材です。この写真のような山積みになった枝葉があります。丸太であれば重機で運ぶ必要がありますが、このような枝であれば地域でリタイヤした人に運ぶのを手伝ってもらうことができ、シルバー世代の人の雇用にも繋がります。このように枝を仕分けしていただいたり、細かい葉っぱをとっていただいたり、水圧で皮を剥いていただくと中に美しい木肌が隠れています。こういったものをサイズに分けて管理するとこれが商品に変わってゆきます。私たちの仕事は木の個性をいかに引き出して価値に繋げるかが大きなポイントだと思っています。これは木の根です。山には転がっていて邪魔ではしょうがない。なんで根っこが出るかと言うと、山に作業道を入れる時にどうしても木を根っこごと外さないとならない。その際に根っこが大量に出てくるのですが、利用価値がないと言うことで埋められたりしてしまうのですが、こういったものも皮を剥いて素材としてデザイナーとか設計事務所にご紹介をしています。この写真はカフェの照明やテーブルの足として枝を使っていたり、根っこを加工してテーブルとして使っていたりもしています。林業界、木材業界ではこのような特殊な材を扱って

いるところがほとんどありません。そういったところで大きな付加価値としてご利用いただいております。

また枝の中でも細い部分は使い切れないうところもあります。これはコロナになってから始めたのですが、山男のガチャという商品にして、この近くだと昭島のアウトドアヴィレッジや多摩エリアのお土産屋さんなどに置かせてもらっています。コロナ禍に販売とかイベントに行けなかったので始めました。そのような価値を付ける場所として檜原村におもちゃ工房という工房がありまして、ここで加工のスタッフが一手間かけたり商品にしたりして販売をしています。一部の商品は無印のオンラインショップでも取り扱われていて、少しずつ販路も広がりつつあります。

また弊社の一本丸ごと使い切ると言う取り組みが檜原村の中でもこの考えが浸透してきてまして、檜原森のおもちゃ美術館がちょうど2年前にオープンしました。檜原村の木を使った学校のような建物でその隣にはおもちゃ工房が立っていて、大体年間4~5万人の親子連れ、どちらかと言うと未就学児のお子さんを中心なんですけど、木のおもちゃや遊具で1日遊べるような施設ができています。その中でいろいろな個性豊かな素材が使われていまして、ショールームのような場所としても活用しています。檜原村が予算を付けてつくってもらいました。

また檜原村だけではなく街にどんどん出てゆこうということで、森デリバリーということも最近やっております。今日は企業関係者が多いと言うことで、いろいろなメニューがある中で企業研修のような形で林業や森の自然という話をした後にカッティングボードをつくったりのワークショップを開催したりもしています。また森林空間の価値を最大化してゆこうということで、企業さんの研修を屋外でやりたいというニーズも少しずつ増えてきていまして、山で植林をしたり、山の管理をするために歩道をつくるとか、下草狩りをするとか、企業さんにお手伝いいただきながら取り組んだりもしています。

また弊社が管理している山にもご案内したりもしております。ここはFSC認証と言って世界で一番メジャーな森林認証制度を取得しておりまして、この取り組みについてもご説明させていただいたりもしています。FSC認証はなかなかご存じない方もいらっしゃるかと思いますが、最近は紙もののパックとか紙製品によく使われることが多いです。先ほど森林のボリュームの話をしていただきましたが、1年間にその山から成長した分しか山の木が切れないという制限がかかっていたり、その山の環境の中でこういった貴重な生物がいるか調査されているとか、そこで働いている人がきちんとした待遇で働いているか、いろんな項目でチェックされます。そういった国際機関の認証を得た森林となっています。こういった取り組みについてもツアーでご説明させていただいております。またもう少し一般の方も巻き込むということで、会員制のMOKKIの森というキャンプ場みたいなこともやっております。普段は木材生産している場所で一般の人が出入りしてキャンプをしてもらったりなどもしております。

今回のテーマによろやく辿り着きました。私は最近流域ということをするようになっていまして。木材という地産地消という言い方をしたりすると思います。地域で採れたものを地域の産業のために利用する。これはどちらかと言うと自治体とか行政区で考えることができると思うのですが、私はそれより流域で考えた方が自然なのではないかと思っています。東京で言うと多摩川流域ですね、秋川や浅川や平井川などいろいろありますが、東京の東側以外は多摩川流域で構成されています。この流域に暮らす僕たち私たちの流域にある山のエリア、この多摩エリアは農業も身近にあるエリア、23区はビジネスのエリア、そして羽田沖の海のエリア、これでこの流域が構成されています。この流域を健全に保つために、この流域の中で安心して豊かに暮らすために流域にある森のエリアに関心を寄せると考えると全てが自分ごとになってくると思っています。私たちの会社は今30名程いますが、そのほとんどが街から来た人間です。檜原村は93%が森林で20年前の人口が3,500人いて今2,000人、2040年には800人になると言われています。数年後にはこの800人で豊かな森を管理しなければならない。でも800人になったらそもそも公共交通自体がバスも廃線になってしまうかもしれない。ここで暮らすことができなくなるかもしれない。そうするとその山を健全に保つことができるのだろうか？人口がいた時はそこに暮らしている人が勝手にその山の管理をしてくれていた。ただそれが出来なくなった時に流域に暮らす僕たち私たちが困るのではないか。だからその流域に暮らしている僕たち私たちが、例えば山に公共交通機関を使って観光に行くだけでも公共交通が維持できるかもしれない。山男のガチャを買ってくれることでそこで雇用が生まれるかもしれない。企業さんがその流域の山側で研修してもらうことで雇用が生まれて住み続けることができる。その結果、その流域の山が良くなる。そういった流域指向で物事を考えると何かすごく自分ごとと思えてそこに関わり代が出てくるのではないかと思います。私は学生時代探検部で、海外でチベットでは川下りしたりモンゴルで洞窟探しをしたりしていたのですが、海外の川は流域で考えるとか言う文明みたいな話になって国をまたいでしまうのですが、日本の場合は山と海がすごく近いので流域で考えにはちょうどいい体感できる距離感だと思います。全て横展開できる。だいたい川沿いに都市がありますので、山と街がいかに流域で繋がっていくかがこれから大事になってゆくのかなと思っています。直近のニュースで分かり易い例で言うと、府中市にあるサントリーさんですが、地下水を汲み上げてビールを作ったり飲料水をつくったりされています。その地下水がちゃんと育まれるようにこの後も事業が続けられるように地下水を育む流域の山側と30年の協定を結んで山づくりに取り組んでゆきます。そうすることで毎年1,000人の社員さんを研修に送り込むと言っていただいている、そうすることで地域の人口がたとえ減ったとしても関係人口で補ってゆくことができます。結果、流域の山や川が美しく保ってゆくことができると思っています。

以上、弊社の紹介と流域の話をしていただきました。ありがとうございました。



卓話講師：青木 亮輔 様



青木様、北村会長



オープン例会の様子

【出席報告】 佐保 勝彦 委員



	会員総数 (出席免除数)	出席総数 (免除者出席数)	MU	欠席	出席率
本日報告(11/1)	34 (0)	25 (0)	1(0)	8	76.471%
前回訂正(10/25)	34 (0)	13 (0)	10(0)	11	67.647%
前々回訂正(10/18)	34 (0)	24 (0)	3(0)	7	79.412%
前々々回訂正(10/10)	34 (0)	21 (0)	8(0)	5	85.294%

<事前の MU>

小島 馨 (クラブ奉仕)

<前回の MU>

阿野 正揮 (理事会)、石場 裕美 (理事会)、遠藤 力 (理事会)、熊井 治孝 (クラブ奉仕)、田中くに子 (理事会)、山下まなぼう (指名委員会)、山口 徹雄 (指名委員会)、伊東 秀章 (理事会)、岩田 和頼 (理事会)、高城 秀一 (理事会)

<前々回の MU>

阿野 正揮 (クラブ奉仕)、伊東 秀章 (理事会)、吉田 宇秀 (理事会)

<前々々回の MU>

石場 裕美 (クラブ奉仕)、遠藤 力 (クラブ奉仕)、倉林 弘明 (例会向上)、田中くに子 (例会向上)、野村 圭伊 (指名委員会)、吉田 宇秀 (IM 委員会)、西山 尚之 (60 周年)、佐保 勝彦 (クラブ研修)

【ニコニコ報告】 関子 久雄 委員長

本日のニコニコ： 0 円 / 累計 252,601 円
ビジターフィー： 9,000 円 / 累計 33,000 円



本日のニコニコはありませんでした。次回よろしく願いいたします。

親睦委員会からです。先週の旅行お疲れさまでした。差し入れとかお見送りもいただき天気にも恵まれて無事に帰ってきました。大谷資料館では幻想的な採掘場跡でした。餃子は食べ放題で焼き餃子が美味しかったです。次に小京都小江戸と言われている栃木市で遊覧船に乗って船頭さんのお話を聞きながら歌ったりして楽しく過ごしました。今回参加されなかった方は来年よろしく願いします。12 月 20 日に忘年家族会を予定していますので是非参加をよろしく願いします。

東京日野ロータリークラブ会報

事務局：〒191-0031 東京都日野市高幡 3-8 田中ビル 3 階
 TEL：042-594-3711 fax：042-593-0510
 例会：毎週水曜日 (12:30 より) 例会場：高幡不動尊客殿
 URL：<http://www.hino-rotary.org> 桃源院青雲 5 階(2023.7.1~)
 メール：info@hino-rotary.org

会長：北村 淳 幹事：伊東 秀章
 会報委員会：山口 徹雄 (委員長)
 疋田 久武 (副委員長)
 小島 馨
 菅原 直志
 山下 雅裕